

## <答 辞>

朝の挨拶が行き交うインターロッキング、窓から見える原野谷川、仲間と共に汗を流したグラウンドや体育館、そして、賑やかな教室。こんな風景が私たちを包み込んでくれていました。私たち264人は3年前に初めて出会ってから今日まで共に過ごしてきました。卒業を迎え、3年間の思い出が昨日のここのように思い出されます。

慣れない制服に身を包み、中学校生活への期待と不安を胸一杯に入學しました。知り合ったばかりの友達が多く、不安を感じる中で迎えた絆遠足では、友達との仲を深めると共に、協力することの楽しさや大切さを学びました。

初めて後輩を持った2年生。後輩から「先輩」と呼ばれることで初めて先輩としての自覚を持ちました。職業体験で学んだ社会の厳しさは将来のことを考えるきっかけになりました。

生徒会活動や部活動、勉強など、中学生として全ての集大成である3年生。「中学校生活最後」というフレーズに最高学年としての責任を感じました。それと同時に感じた寂しさは時が経つにつれて大きくなっていきました。

1年のスタートは修学旅行でした。京都の景観や奈良の大仏など、日本の文化を自分たちの目で見て、改めて日本の素晴らしさを感じました。みんなと過ごした3日間は、僕の宝物です。

3年間の努力と、チームメイトとの絆を信じて勝利を目指した磐周大会。仲間と共に流した汗と涙、そして喜びと悔しさは一生忘れない思い出になりました。

袋井中が1つになった体育大会。「心繋〜エール〜」というスローガンのもと、全員が全力を尽くしました。ソーラン節が終わったあと、

グラウンドに溢れていたのは笑顔と感動でした。

一人一人が奏でるハーモニーが「彩」となって体育館に響いたあやぐも祭。初めはうまくいかなかったても、練習を重ねていくごとにまとまりができ、最高の合唱にすることができました。

受験勉強が苦しいときも、球技大会や卒業式など、入試が終わってからの思い出作りを楽しみに、仲間と教え合い励まし合ってきました。しかし、入試を目前に控えたある日、新型コロナウイルスによる休校のニュースが全国を駆け巡りました。これにより、明日にでも中学校生活が終わってしまうことへの寂しさ、何もできない悔しさが入り交じった複雑な感情を抱きました。2週間早まった中学校生活最後の日。複雑な心境のまま、その日も登校しました。しかし、いつも通り明るい学校に、安心感を得ると共に、前向きな気持ちにさせられました。人を思いやった行動、言葉の温かさに、みんなの存在のありがたさが身に染みしました。

在校生のみなさん。みなさんとは、部活動や体育大会、あやぐも祭で、一緒に汗を流してきました。これからも袋井中生としての誇りを持ち、この学校をもっと素敵な学校にしていってください。今日、皆さんに袋井中学校のバトンを繋ぎます。

今まで支えてくださった先生方。厳しく指導してくださったことは、全て私たちのためであったと感じます。この3年間で人として大切なことも学びました。先生方から教わったことは決して忘れません。

ご来賓の皆様。私たちを温かく見守ってくださり、ありがとうございました。これからも地域の方々への恩返しとして、袋井市の発展に貢献したいと思います。

私たちの一番近くで見守ってくれた家族。毎日のように意見が対立

し、困らせたり心配させたりしました。それでも、私たちのことを一番に考えてくれました。私たちを支えてくれたおかげで今日まで成長することができました。これからもお世話になります、よろしくお願ひします。

長いようで短いこの3年間を、みんなと一緒に過ごしてきました。嬉しいこと、楽しいこと、ときには辛いことも分かち合ってきました。1人ではできないことでも、みんながいたからこそ乗り越えることができました。それぞれの道を歩んでいきますが、これからもずっと友達です。

入学し、部活動や勉強に励み、卒業式を迎える。全部当たり前のことだと思っていました。今までどれだけ当たり前を当たり前のものとして過ごしてきたのか、改めて考えさせられました。中学校生活最後の学び、「当たり前とは何なのか」これからはこのような簡単そうで難しい、答えのない問題に向き合っていくこともあります。仲間と培った経験と知識で、自ら考え、進んでいきます。

応援して下さった皆様へ感謝に気持ちを伝え、答辞とさせていただきます。本当にありがとうございました。

令和元年度 袋井市立袋井中学校 卒業生代表 角ヶ谷 健太